２０２５年度保育園自己評価表

園名　まあむベイビィズ相模大野

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
【目標】 ・思いやりある優し子 ・自分で決めて自分で行える子 【達成度】 ・異年齢で過ごす時間を持つようにしていたことで、自分より小さい子を気にかけ、自ら手を差し伸べようとするなど、しぜんと優しく接しようとする姿勢が身に付いた。 ・保育室内に子どもが玩具を取り出せる玩具棚を設置したことで、自ら興味がある玩具に手を伸ばし、自分で遊びを決め、夢中になって遊ぶ姿が増えた。また、室内環境をコーナー化し遊びの住み分けがされたことで、集中して遊び、友達と遊びを発展させながら楽しむ姿が見られた。 ・導線を見直したり、ロッカーや靴箱の位置を変えることで、着替えや身の回りの片付けの経験が増え、保育者の簡単な言葉がけで意欲的に行動する姿につながった。また、「自分でやりたい」気持ちが芽生え、それぞれの発達の中で挑戦し、自分でできたことを喜びながら保育者に見守られ生き生きと過ごしている。	・担任だけではなく、クラスを超えた連携を図る意識を共有していった。特に、活動の切り替え、昼食、午睡、午後のおやつの場面では連携が重要だった。子どもの姿を園全体の温かいまなざしで見守り、個のペースや発達の違いに寄り添った関りがより丁寧に行えるようになり、連携向上から、子どもが伸び伸びと過ごせる保育環境につながっていった。 ・環境づくりにおいて、新しいことに取り組んだ時には職員同士で都度、振り返りをし、改善を重ねることで、その時々の子どもの姿に合った環境構成につながった。 ・クラス伝言ボードで子どもの状況を共有するだけでなく、職員の対話も大切に情報共有を心掛けていった。保育士間の中でも様々な意見や捉え方があることを活かして、個の育ちにの気づき合いや、よりよい環境づくりを心がけている。 ・週一で職員会議を行い各クラスの連絡事項、毎週末にクラスでの活動内容を伝え、園全体での翌週の動きを確認し、安全に、子どもが夢中になって楽しく遊べる保育につなげている。 ・怪我報告やヒヤリハットの事例会議を行い、発生状況の周知や再発防止に努めた。	・散歩では、近隣の方へ挨拶をしたりと、ふれ合う機会を多く持つことができた。散歩先の公園では、地域の子どもと一緒に遊んだり、その保護者の方との会話を楽しむ場面が見られた。保護者の方から子育ての悩みを相談され、ちょっとした時間のなかではあったがやりとりすることができた。 ・消防署へ散歩へ行った際には、訓練を間近で見学させていただいたことで、興味関心が高まっていった。また、隊員の方に温かく接していただき親しみを感じ、散歩の際には自ら手を振ったり挨拶をする姿が見られた。 ・2歳児はクッキングの材料を近隣のスーパーに買いに行く経験を取入れ、商店街の方とのやりとりを楽しんでいた。 ・電車を見ることが好きな子が多く、電車を見に散歩にでる。電車を眺める場所では駅員さんがよく行き来され、温かく声をかけ手を振ってくださった。好きな電車を見るだけでなく、働く駅員さんの温かい姿から、より電車への興味や憧れを持つ姿につながっていった。

各職員、学年の振り返りから、職員会議での共有。